

「訪問現場における浮腫アセスメント」

松尾汎先生

今回の松尾先生のご講義の内容は、リンパ浮腫に対するものだけでなく、臨床現場で頻繁に遭遇するような様々な原因に起因する「浮腫」全般がテーマです。在宅診療における基礎疾患は、高齢者が抱える疾患、脳血管障害や神経疾患、疼痛性疾患、悪性腫瘍、循環器疾患、呼吸器疾患など多岐に渡り、原因疾患に対する治療と共に浮腫に対する対応も並行して行われます。浮腫に対する対応はその原因により異なるため、安全な治療とケアを行うためにより重要であるのは「診断」です。この観点より、むくみを伴う10疾患の症例を基軸に、鑑別診断、評価の仕方、現場でできるアセスメント方法の要点について、具体的にご解説いただきました。

わたしたち専門セラピストには、訪問先または治療施設において頻繁にみられる「むくみ」に対する治療とケアのみならず、全身状態についても、くまなく視診、触診しながら、ちいさな変化にも早期のうちに気づいて、すみやかに医師に報告することで、患者さんの安心と暮らしを守っていくという役割もあります。これは、初診時だけでなく治療経過においても、安全で効果的な治療とケアにつなげていくために継続的かつ重要な課題であることを一層認識いたしました。様々な浮腫アセスメント、がん終末期の対応、静脈疾患、フットケアなど幅広くお話いただきました本日の内容を、それぞれの現場の臨床に繋げていただけましたら幸いです。

「様々な浮腫に対する訪問看護の実践について」

奥朋子先生

奥先生には訪問看護の現場における様々な浮腫の種類の見極め方、そしてそれぞれの原因と対策について、またスキンケアの具体的な方法についてもご解説いただきました。

長年の豊富なご経験を通じて、試行錯誤を繰り返しながら築かれた的確なケアの基礎と応用法、患者さんとの寄り添い方について、大変細やかにご紹介いただきました。7人の患者さんの実際のケア内容についても、まず対応からはじめ、状況に合わせてこの方法に切り替え、最終的にこの対応で安堵していただけたという一連のプロフェッショナルなご判断から多くの学びをいただきました。「浮腫の軽減を目指したケアが、必ずしも利用者さんの苦痛の軽減につながらないばかりか、生命を脅かすことにつながる場合ある」、「患者さんの傍に勇気をもって居続ける」「希望をもつことを支える」「非言語的コミュニケーションを大切に」など、常に患者さんのお立場から考え、最期の瞬間まで温かく患者さんに寄り添う奥先生の姿勢に、受講生の皆さんも大変感動され、励まされていました。大学病院において手探りでリンパ浮腫ケアを始められ、次第に多くの医師や多職種の皆さんとの連携の輪が広がり、院内での高い専門性のチーム医療の礎を築かれた奥先生。現在は退職後に開設された訪問ステーションを拠点に、大学病院および地域医療機関との垣根のないリンパ浮腫医療の連携にも力を注がれています。